

いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。確定申告ありがとうございます！毎年お伝えしていますが、確定申告は日本国内で2000万人以上参加の国内最大級のイベント。



税理士はそのイベントに大きく係る仕事ですので、いつも3月16日を無事に迎えることができるかとほっとしております。本当にありがとうございました。

さて、実は今年は確定申告の渦中に大きな挑戦をしていたのです。それは何かとい

いますと、僕が所属している和歌山県経営者協会より、「2月の終わりから3月15日までの間に全4会場で、人事・採用関係のセミナーの講師をして頂きたいのですがどうでしょうか？」との



挑発的な依頼があったのです。何が挑発的かといいますと、①時期(確定申告期は普通税理士は受けない)②内容(会計、税務ではなく人事関係)。そこで一瞬怯みそうになりましたが、ここで怯んでは「確定申告時期に、



所長までがいっぱい、いっぱいのだめだめ事務所のレッテルが張られてしまう！それはいかんよね」ともの言いたげなスタッフを後に、「了解です！

資料は一から作ります！タイトルは『人手不足下の採用・活用・評価』でお願いします」と、半ば見切り発車での受託となった

のです。といっても、本当のところは、10年前なら断っていたと思いますが、今はスタッフが実力をつけてきているので、僕はもちろん全件確認はしますが、昔のように純粋なプレイヤーの部分はかなり減ったのは事実です。皆遅くなったものです。そこで、こういったセミナーの講師については、きしゅう会計の宣伝になりますので、所長は如何なる場合も「はい！喜んで！」と受託するのです。さて、といっても今回は会計でも税務でもなく、「人事」。過去に1、2度はやったことはあるけど、もちろん専門外。でも普段から『仕事ってなんだろう？』って意識は持っているので、人事についても、



1時間半くらいなら独自見解で話せるかなって、思いながらほぼほぼそれで押し通したセミナーになってしまいましたが、結構楽しんで頂けたようです。



経営者協会のセミナーで一番やっかいなのが、シュチエーション。12時集合。お昼ごはんを食べながら、事務局からの連絡事項。それが終了した後に、12時30分スタート。つまり、当然眠い訳です。聴講者を寝かさず終了の14時まで送り届けることができれば講師が Winner といったセミナーです(笑)。



さて前置きが長くなりましたが、桜も開花の入社シーズンですので、セミナーで話した、

内容について書いてみたいと思います。最初に聞きます！

皆さん、「仕事とは何でしょうか？」

今日のNHK連ドラ「まんぷく」にこの問いのヒントがありました。開発された「まんぷくヌードル(カップヌードル)」新しすぎてなかなか売れないのですね。でも値下げをして売りたい、そこで、新しいチャンネルを模索して、開発部の人間まで営業に回されます。そこでたかちゃんの旦那ことまんぷく食品開発部の神部君が夜遅くまで営業に回り、タクシー会社から大きな注文をもらい、社長の満平さんに電話を入れて「お客さんの本当に喜んでいる姿を見て感激しました」と報告します。そう、「仕事は楽しいもの、喜びを感じるもの」なのです。



このシーンを見ていて、僕は黒澤明監督の映画「生きる」のあるシーンを思い出しました。主演の公務員役の志村崇は自分の仕事にも家庭にも喜びが持てなく苦悩する日々。職場の同僚の女性が退職して、おもちゃ工場で働くようになったあと再会するのですが、ベルトコンベアで流れてくる「うさぎのおもちゃ」その一部分を作るだけの仕事なのですが、この女性は「何も作れなかった前の仕事よりずっと楽しい。この仕事をしていると、世界中の子供たちとお友達になれるような気がして」と無邪気に楽しそうに



志村崇に話しかけるのです。状況だけみれば、ベルトコンベアの流れ作業。楽しいと感じない人も多いはず。でもこの女性

性は「楽しい」と言い切ります。そう「楽しいか」「楽しくないか」決めるのは状況ではなく、自分の気持ちなのです。このエピソードはちと深く、セミナーでは取り上げなかったですが、、、そこで、また改めて「仕事」を考えていきます。セミナーの切り出しはこうです。「趣味と仕事の違いは何ですか？」この質問を初めてしたのは15年前クライアントの入社式でした。高卒女子の新入社員にこの質問をしたところ、「趣味は楽しくて、仕事はつらい」と答えてきました。社長がいるにも関わらず、、、「仕事が辛ければ、人生で一番長く過ごす時間が辛くなるからみんなの人生暗くなってしまうね」は僕の言葉。それから考えたんです。ボランティアも加えて、「仕事」「趣味」「ボランティア」の違いを「お金を貰える」「お金を貰えない」「自分を喜ばす」「他人を喜ばす」で4つのマトリクにまとめました。↓それがこれ！

お金貰える 他人を喜ばす	お金貰える 自分を喜ばす
仕事!	?
お金貰えない 他人を喜ばす	お金貰えない 自分を喜ばす
ボランティア	趣味

さて、そこで右上の「？」は何でしょうと質問。ここで悩む社長と、即答の社長に分かれます。もちろん答は左上と同じ「仕事」です。「お金が貰えて、他人を喜ばすのが仕事です。だけど、人間ってうまくできていて、人が



喜ばば自分も喜ぶんです」なので、仕事は本来楽しいものなのです。それができていない職場では求人して人が来てもやめていき

ますよ。そしてその楽しさは2つ。さっき言った「人に喜んでもらうこと」そして「自分が成長すること」、これが大きな喜びなのです。「塾は生徒がお客さんだから当然、段階的にチャレンジさせて成長させる責任もノウハウもある、ところが会社はお金貰ってるんだから、自分で成長しろと言わんばかりです。でもこれではだめなんです」と。昔は「習うより慣れろ！」と成長は本人任せのところがありました



ましたが、今は昔と違って、時間の流れが速いのです。携帯、スマホ、メールがなかった時代は車や電車での移動中仕事が止まっていた、また移動先について固定電話で連絡しても相手が不在ならまたそこで仕事が止まっていたのです。そう、時間がゆっくり流れていたのんびりしていたのです。なので



「習うより慣れろ！」みたいなことを言われたのかも知れません。今は違います。仕事は昔の速さの何倍ものスピードで進むので、成長させる仕組みは昔よりも重要になっているのです。また最近の若い人の特徴につ

いても話しました。「今の若い子は回路が単純なのです」

人間関係はコミュニケーションから成り立ちます。そしてコミュニケーションとは連続した言葉の選択です。またシチュエーションの違いで伝えたいことが同じでも表現が変えなければ、良い人間関係が構築できないケースもあります。僕たちの学生の頃、先生とため口をきいていたのは不良だけでした。ところが、最近は小学生から大学生まで多くの学生が先生とため口をききます。それ自体が良い悪いというのではなく、どの状況でも同じ言葉で使っていると、心や思考回路の器用さは育ちません。



もう一つ分かりやすい例でいうと、僕たちが大学生の頃、彼女と泊りで遊びに行くには、親に嘘をついた

ものです。良心の呵責に苛まれながら、それでも彼女と過ごしたいという思いで、悪いと思いつつも嘘をついたのです。ところが今の大学生のカップルは「明日から彼氏と泊りで旅行にいく」と平気で親に言うらしい。僕たち「男女七歳にして席を同じうせず」の時代に育ったものには到底理解できません(笑)。ただ、これも時代の流れ、それ



の良しあしをいうのではなく、これも複雑な回路が育たない原因だと思います。正直に言うことはどの局面においても良いこと。

「正直=葵の印籠」と言わんばかりです。それは正しいけど、正しくない。世の中で必要な器用さを身に着けられる局面が減って

きていると思うのです。またこれも同じですが、用意されたカリキュラムではありませんが昔は学校で、「理不尽」を学べたのです。「先生は正しい」だったのです。学校で先生から理不尽な目にあって家でお母ちゃんに訴えると何を言っても「あんたが悪い」の結論でした(笑)。



今から思えば「あれは絶対おかしい」と言うことも沢山ありますが、その時はそれが理不尽でも後に残さず消化できるほど、時代も自分たちも大らかだったのです。



でも今は違います。すっかり「先生=正しい」なんて砂上の楼閣は跡形もなく消え、ちょっとした間違いでも、父兄は子供たちの味方をして、先生や学校を責めるのが一般的。これでは社会に出た時に必要な理不尽に耐える力を身に付けることはできません。そしてこれらの結果がこれ！

入社1年以内退職の理由ランキング

入社1年以内	
1位	仕事が自分に合わない(39.1%)
2位	賃金などの条件が良くない(32.6%)
3位	人間関係が良くない(28.3%)

正直は正しい。単純な思考回路。コミュニケーション能力が低くて、人間関係の構築が下手で、理不尽に対する免疫もない。そんな社員が上記の通り、「自分に合わない」「つまらない」といつか1年以内にやめるのです。「仕事の意味」「人との付き合い方」から教育しないと今の時代は持たないと思います。

さっきの映画「生きる」ではありませんが、「つまらない仕事なんてない」「つまらない仕事だと思っている自分がいるだけ」ってことを分らないと人生しんどいです。最近 YouTube の動画で鴨頭さんのセミナーをよく見ます。仕事を楽しくするヒントが沢山あります。事業主にも従業員にもお薦めです。さて、順番が逆になりましたが、最後に求人の方法についてお話しした内容を書きます。ハローワークの求人票によくあるのが「業務内容:一般事務」このような内容。



人手不足のこの時代。これでは給料や他の条件がよっぽど良くない限り応募はないでしょう。求人票って最初に気を引けるかどうかのラブレター

なのです。「業務内容:一般事務」をラブレターに変換すると「俺とつきあえ」と言っているようなもの。もっと気持ちを込めて、自分(会社の業務内容)が分かるように書かないといけません。また前述の通り、業務を通じて自分がどのように成長できるかなどを記載しないと仕事を探している人の心を捉えることはできません。そして応募があり採用となると、ラブレターから今度は恋人同士ではなく、いきなり結婚なんです。なぜなら絶対的な権力を



もった社長である姑、上司や先輩という小姑がいっぱいなのだから。そしてそこには、配偶者はいないのです。応募者はそんな不安で一杯。そこを安心できる仕組みの構築が人手不足のこの時代とても重要です。あれ、コメント書く欄が残りませんでした。というか今回は全て僕のコメントですね(笑)